



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



門へ違13
878
卷

四方哥垣大人
与藥亭大人

狂相撲四本柱 全二冊

桑楊庵大人
六樹園大人

鈍く亭大人撰

狂名画五十題 全二冊

序文 蜀山先生 書 鵬齋先生
跋文 六樹園先生 書 星池先生
此は六十四年より約の狂名画五十題を二冊に分けて作者五人と撰びあつて
画をわけて各別文思を生かす所を各々門をいふ武法をききとせ外
唐画文人の画を多くし江戶のさうなう法画といふ名をわける先
画をくくを別しきくといふ所をいふ大衆年仕

六樹園翁撰

忠臣藏 狂歌合 全二冊

曾我物語
右の本末辰のより退き雲山の間
此をよめよと君をいふの程を希ひ

本村木町一丁目

春案軒發版



其石大平記白石新の清瑠璃と紀上太郎島亭馬と始
容揚徳より總く作者五人おの錦心とてのく趣向と新は
悉く清瑠璃とて文句と奇みあせり。且改た其甘地高より
曲師たのく青地と挑へば。當時流行するを
書鋪春案軒。正本と梓行してよとせしめ。今に傳りそ
尚盛なり。此繪冊子あるや。正本は要は摘簡約して
五冊とて圖及するところを年毎の板行既ふ磨滅して殆
見ふが。仍之再び五渡亭と書と需て今茲錦板
更ふ。世に普くするにせしめ。或あるにわたり云ふ。

寛政七乙卯年正月開鐫
文政三庚辰年孟春再板

本町庵三馬叙

晋米齋正粒書





おちろ様へんの
きんぎょなうら
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ

おちろ様へんの
きんぎょなうら
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ



「やまうら
これへん
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ

「やまうら
これへん
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ



おちろ様へんの
きんぎょなうら
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ

「やまうら
これへん
ぐさのきんぎょ
きんぎょねあす
きんぎょのたえ
なうらとやう
おちろ様へん
きんぎょ







[illegible]

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

ちのちのち
 のちのちのち
 のちのちのち
 のちのちのち

ふに
と
くま
のう
こた
かろく
かく
かん
かん
かん
かん
かん



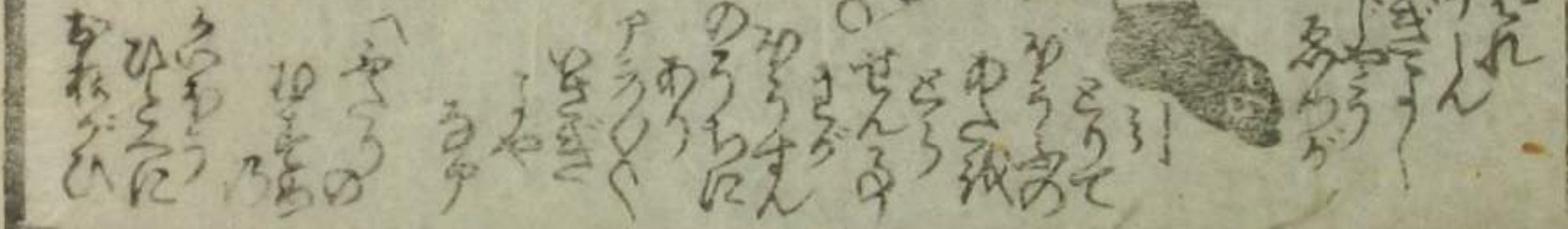
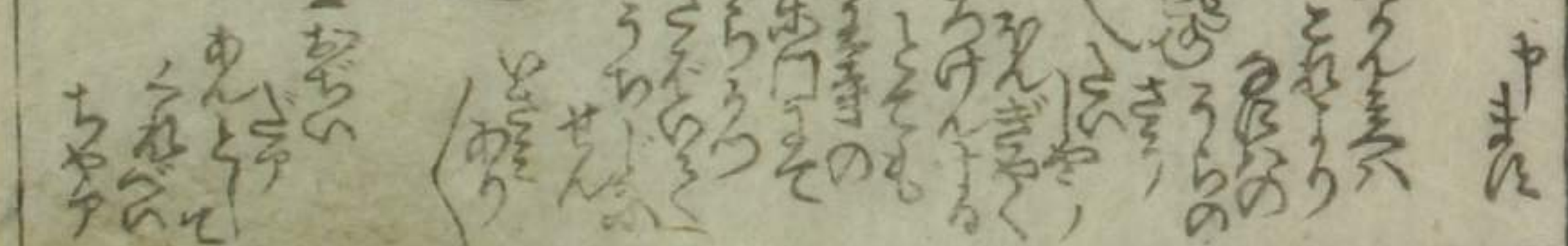
三

りきふく
 コリヤ
 まさあ
 コレ
 あのだよ
 るぐ
 まろけに
 ひと
 うら

[illegible]

牙のうしろ

[illegible]

[illegible][illegible]

六つ目



コサレタ
ありどろ
ぶろど
そはる

三つよき
 二つハ
 一のふ
 田
 一
 一

[illegible]



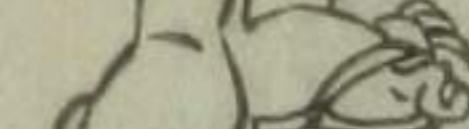
まづく
あわづけ
わさり
ませ
イヤハ
くらさんか
がうてん
しねと
ちや
えきおの
えんせ
あへる
よん
あらね

名ぶらに
ふきこの人
わけんこ
あつたの
伊予人
ゆめろ
ごのに
ざんざ
やうて
くる西一
まうぐせ
あろう孫
せんどう
く手紙
どめいふも
これもえき
のをわけん
そてやう方
ながひにいひ
つのとまてん
まうてこの
五丁このぞ城
くらめてえきこの
とくらあの人に
わけさせぬの
ざんきふに
なり



七ツ目

日
いふのうと
あゝとにひたそ
まよふわろの
みだらひハ
がにえんくさ
るるあど
るまや
くりやんや
こまものや
くらそう
ゆいこのの
うきやさん
むらさち
くらぎめき
よるひの
するの
はらんあり
くらまが
ぶのせハ
うのも
くらあ
とく
めり
なす
さへ
きこう



きやん





[illegible]

天竺寺

それぞろろ
ゆき
まふ
ひり
イナ

十七

[illegible]

一、やうとぬに
 ぞかきつるま
 コリヤとある所
 ゐのサハとナ
 めてさうと
 きまわい

兄コ
 のろ

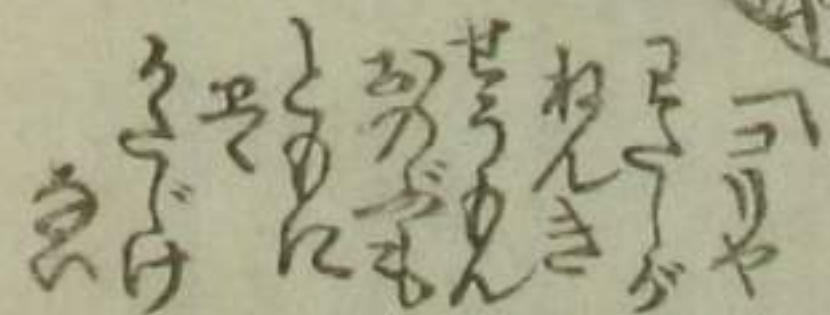


おきく
いふなるを
おきく

可んか くらん くのふ ませ ちやうふ 又ちやうふ くらんけ くらん

白石

秋保
 一まのち
 えん
 三人びく
 げんりやうの
 こうでい
 ありき
 ふう
 サ、
 りん



七の目大切



三
三
三



まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに

ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん

ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん



ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん
 ぐんぐんぐんぐん

まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに

まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに



まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに
 まつたかきとまりきりて
 むすむにむすむにむすむに

二か所の
 まきとを
 まき
 まき

わ
あでうく
いんちや
あまの
や
こころん
ヤレモ
ぬき

ころでん
 そろけぬ
 せせきり
 じがきの
 下と
 八尾が
 ぞく
 とく
 ころ
 こひ
 なる

八尾市
そんなんきよ
そんなんきよ

五
五
五
五
五

可
お竹
お竹
お竹

